あわらの古墳せいぞろい　～福井平野との比較～

はじめに

あわら市内には、古墳時代前期の井江葭、向山古墳群から始まり、古墳時代後期に勢力を拡大した横山古墳群、その後の単独立地の椚古墳や横穴式石室からなる群集墳の清王古墳群など、多数の古墳が存在します。これら市内古墳の盛衰と特徴について、福井平野とその周辺を代表する古墳からの出土品とを比較検討することで考察を加えます。まず、福井平野とその周辺の古墳からの埴輪や土器を時期別に並べ、その後にあわら市内の古墳出土の土器へ移り、横山古墳群の出土品は単独で取り上げ、最後の特別展示室には、鉄製品や装飾品をまとめて展示していますので、お楽しみください。

１．福井平野とその周辺を代表する古墳の変遷

【前期】（三世紀中葉～四世紀後葉）

古墳時代は、奈良県桜井市箸墓古墳のような超大型前方後円墳が近畿地方に出現することで始まります。前方後円墳は主に三段で造られ（段築）、その斜面には石が葺かれ（葺石）、各段の平坦部には円筒埴輪などが並べられました。埋葬施設は竪穴式石槨（室）で、中に長大な割竹形木棺が納められていました。主な副葬品には、呪術的要素の強い三角縁神獣鏡などの銅鏡、鉄製の武器や農工具、玉類があります。

前期後半になると、周りに堀のあるもの（周濠）、埴輪に家形埴輪などが現れ、竪穴式石槨に石棺が納められるようになり、副葬品に腕輪形石製品が加わります。

福井平野とその周辺の古墳も、ほぼ同じ傾向を示しますが、全ての要素を備えることはなく、近畿地方よりも導入が遅れるもの、伝統や地域性を保つものがあります。

福井県北部、嶺北地方全域を治めた人（以後、大首長）の最初の古墳と考えられているのが、永平寺町にある手繰ヶ城山古墳です。県内で二番目の大きさを誇る前方後円墳で、規模は全長約 129m、最大高 13mです。外部施設は、段築（二段築成）、葺石、埴輪（円筒・朝顔形）、造り出しが確認されています。造り出しに近接して陪塚と思われる方墳があります。埋葬施設は未確認ですが、地中レーザー探査の結果から、刳抜式の割竹形もしくは舟形石棺が納められていると考えられています。同古墳から採集された埴輪片を接合・復元した朝顔形円筒埴輪（展示 1）は、五条の突帯を持つ六段構成で、器高 1m以上もあり、二段目と四段目に半円形の透孔が入っています。埴輪は越前国でも最古期に導入されています。また、埴輪の底部にある剣先形の切り込みは、他地方では見られず、独自のものと思われます。これらから四世紀後葉頃に築造されたと考えられています。

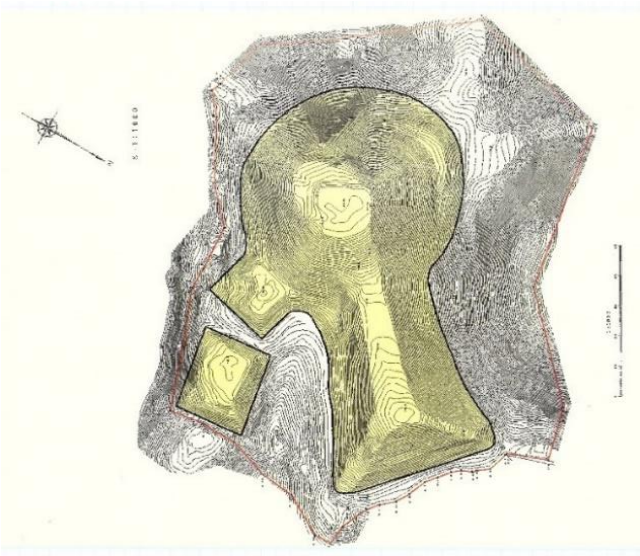

図１　手繰ヶ城山古墳実測図（永平寺町教育委員会提供を加工して使用）

写真１　手繰ヶ城山古墳の朝顔形埴輪（永平寺町教育委員会所蔵）

次の大首長墳は、九頭竜川を挟み北側となる坂井市丸岡町の標高約196mの山上に所在する全長141mと県内最大規模の前方後円墳である六呂瀬山１号墳で、四世紀後葉から末頃の築造です。段築、葺石、埴輪、陪塚を備え、埋葬施設は舟形石棺の直葬と考えられています。

【中期】（四世紀末～五世紀末）

大阪府堺市の大山古墳をはじめ、前方後円墳が多くの地域でより一層巨大化し、特に前方部が発達します。近畿地方では前方部と後円部境のくびれ部に造り出し、周囲に整った盾形の周濠をもつものが出現します。埋葬施設は前期に続き、竪穴式石槨ですが、中に組合式の長持形石棺が納められるようになります。主な副葬品は石製模造品や甲冑や刀剣などの鉄製武具・武器で大量に出土することもあります。

中期後半になると、埴輪には人物・動物埴輪が、埋葬施設には横穴式石室が出現し、副葬品には馬具や金銅製の装身具、須恵器などが加わります。

福井平野とその周辺においては、前期に続いて主要な前方後円墳は高所に築かれており、段築や埴輪を備えますが、葺石はないものもあります。埋葬施設は刳抜式舟形石棺の直葬と独自性を維持しますが、重い棺を高所まで運び上げる労力は、甚大であったと想定されます。一方、墳丘規模は縮小化し、墳形も一時帆立貝形となり、平地近くに立地するなどの変動も見られます。

大首長墳は、六呂瀬山１号墳と隣接する同３号墳へ続き、規模は全長92mと縮小していますが、段築、葺石、埴輪を完備し、埋葬施設も石棺と考えられています。

次が福井市西部の免鳥長山古墳（５号墳）となります。これまでの九頭竜川沿いから突然、日本海沿岸部に移動し、墳形も前方後円墳から帆立貝形へと変化しています。規模は全長90.5m、高さ約14mで、後円部の北西と北東の二箇所に造り出しが付設された特異な形をした帆立貝形古墳です。外部施設は、段築（二段築成）、葺石、埴輪（円

筒・家形・甲冑形）が確認されています。埋葬施設は盗掘により破壊されていたものの、福井市足羽山産の笏谷石製の舟形石棺が納められていました。円筒埴輪は上部の欠損が著しいため全体形は不明で、朝顔形埴輪も未確認です。ただ、底部に剣先形の切り込みのある円筒埴輪（展示 2）も存在します。副葬品は盗掘のため、勾玉・管玉・棗玉の玉類（展示 58）、環頭形石製品（展示 59）、鏃形石製品（展示 60）、腕輪形石製品の鍬形石（展示 61）・車輪石（展示 62）、鉄製武器等にとどまりますが、豊富であったことがうかがえます。埴輪や石棺の形状などから五世紀前葉頃に築造されたと考えられます。

写真 2　免鳥長山古墳の環頭形石製品

（福井市教育委員会所蔵）

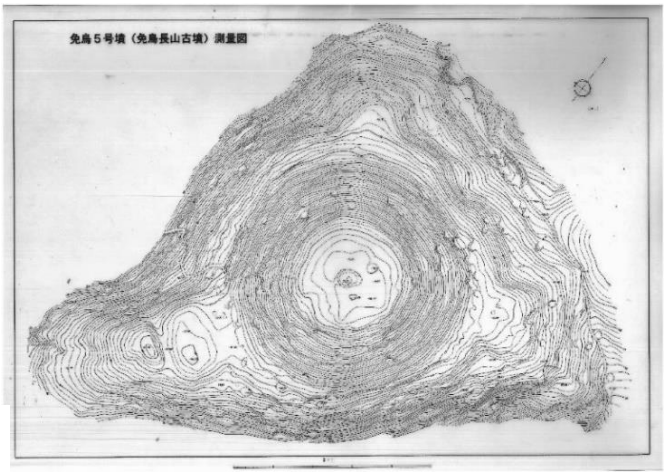

図 2　免鳥長山古墳実測図（福井市教育委員会提供）

鳥越山古墳は、永平寺町の二本松山丘陵上の標高 263.7mと高所に所在する全長 53.7m、高さ約 7.8mの帆立貝形に近い前方後円墳です。硬い地山を削り出して造られており、段築、葺石はなく、埴輪は後円部頂に家形と蓋形（展示 6）の形象埴輪が確認され、円筒埴輪列も想定されています。また、くびれ部頂部には一括して朝顔形円筒埴輪（展示 3）が並存しています。埋葬施設は後円部に二基あり、一基は中心主体の越前国で最大規模の笏谷石製の舟形石棺（全長 340cm、全幅 195cm）で、もう一基は越前国で最古の横穴式石室で、北部九州の影響を受けた竪穴系横口式石室です。後円部の一番高所から、石釧（展示 63）、砥石、馬具、土師器、須恵器の器台（展示 7）などの供献品も見つかっています。時期は、埴輪や須恵器、石棺などから五

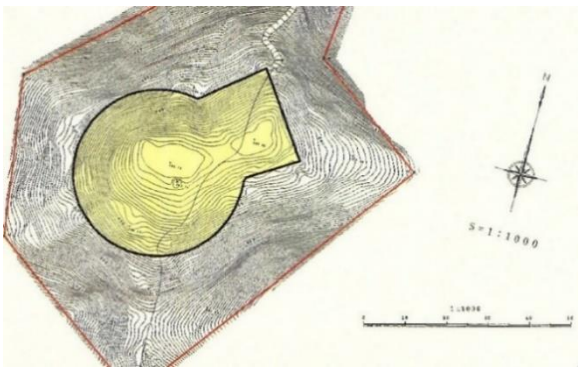

図 3　鳥越山古墳実測図（永平寺町教育委員会提供画像を加工して使用）

写真 3　鳥越山古墳の蓋形埴輪

（永平寺町教育委員会所蔵）

世紀中葉頃と思われます。段築と葺石を欠き、墳形や規模からも大首長墳ではないものの、極めて近い立場の人の墓と考えられます。

天神山（てんじんやま）７号墳は、福井市の南東部、篠尾（しのお）町の低丘陵上に所在した直径 52m、高さ 7.5mの円墳です。外部施設の段築と埴輪はなく、埴輪は墳頂部や墳丘斜面から円筒埴輪や家形埴輪の破片が検出されています。円筒埴輪は二条突帯三段構成に復元される小型で、底部に剣先形の切り込みのあるもの（展示 4）も見られます。底部の剣先形の切れ込みは、確認例は少数ながら先の手繰ヶ城山古墳、免鳥長山古墳でも確認されており、記号等の意味合いがあったと考えられ、受け継がれていたことがわかります。埋葬施設は墳頂部に二基が並んでおり、差異はありますがどちらも割竹形木棺を粘土（ねんど）で覆った粘土槨（かく）です。副葬品には、珠文鏡（しゅもんきょう）や、金製垂飾付耳飾（きんせいすいしょくつきみみかざり）、勾玉、ガラス小玉などの装飾品、甲冑、鉄剣、鉄刀、鉄鏃などの鉄製武器・武具が多数出土しています。時期は、五世紀中葉頃でも鳥越山古墳より新しいと思われます。埴輪以外の外部施設がなく、墳形も円墳であることから、この地区の首長クラスの人が埋葬されていると考えられます。

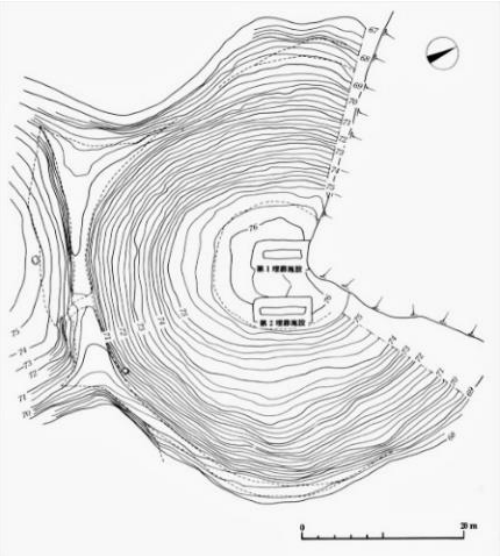

図４　天神山７号墳実測図

（福井市 1990 より転載）

写真４　天神山７号墳の円筒埴輪

（福井市教育委員会所蔵）

桧ノ木坂（ひのきさか）古墳群は、永平寺町吉野堺に現存し、円墳、方墳の６基で構成されています。５号墳はその中で最も大きい直径 28m、高さ約 3mの円墳で盛土（もりつち）をして造られています。外部施設の段築と葺石はありませんが円筒埴輪と越前国では出土例が少ない家形埴輪（展示 5）が２個体分見つかっています。埋葬施設は二基あり、第一埋葬施設が舟形木棺の直葬（じきそう）、第二埋葬施設も木棺の直葬です。副葬品は、第一埋葬施設から鉄剣２、第二埋葬施設から鉄刀１が見つかっています。円墳のうえ、大きさは 30m以下で外部施設も欠きますが、家形埴輪が設置されていることから、大首長に従属するこの一帯を治める首長クラスが埋葬されていると考えられます。円筒埴輪などから、

五世紀前葉頃の築造と推定されています。

【後期】（六世紀初頭～七世紀中葉）

六世紀後半頃まで、主要な古墳は前方後円墳ですが、前方部の発達は顕著です。しかし、規模は徐々に縮小化し、西日本では六世紀末には前方後円墳から方墳などに変化します。段築は残りますが葺石は減少し、埴輪は人物・動物埴輪の樹立が盛んとなります。埋葬施設は横穴式石室が一般的となります。代表的な副葬品は、装飾性の高い金銅製の馬具・武器に加え、須恵器を中心とする大量の土器類です。

また、横穴式石室を持つ直径 10m前後の円墳が狭い範囲に密集する群集墳が各地で盛行します。

福井平野とその周辺においてもほぼ同じ流れですが、前方後円墳はいち早く造られなくなり、埴輪も人物・動物埴輪が導入される前に姿を消します。

椀貸山（わんかしやま）２号墳は、椀貸山古墳と同じ坂井市丸岡町坪江の山麓に所在し、坪江２号墳とも呼ばれますが、工場建設により消滅しています。1920 年の上田三平の報告によると、全長 26.1m、高さ 3mの前方後円墳です。外部施設は丸岡町教育委員会が確認調査を実施した際に周濠（しゅうごう）が確認され、埴輪も検出されていますが、段築や葺石の存在は未確認で、存在しなかった可能性が高いです。埋葬施設は後円部に石室があったとされ、横穴式石室（よこあなしきせきしつ）と考えられます。工場造成の際に、須恵器の有蓋高坏（ゆうがいたかつき）（展示 8）・長頸壺（ちょうけいこ）（展番 9）・短頸壺（たんけいこ）（展示 10）・広口壺（ひろくちつぼ）（展示 11）と土師器、木心鉄板張輪鐙（もくしんてっぱんばりわあぶみ）及び金銅製馬具片（こんどうせい）（展示 54）、鉄刀などの武器が発見されており、椀貸山古墳とほぼ同じ六世紀前葉頃の築造と思われ、同墳の陪塚（ばいちょう）の可能性もあります。

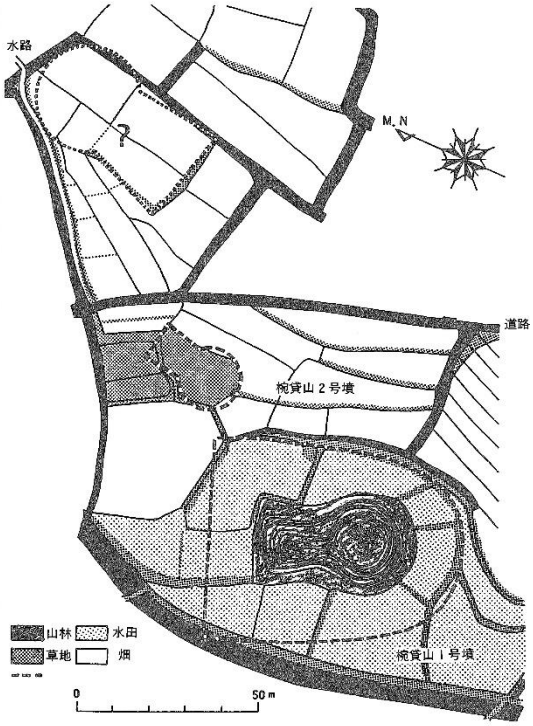

図５　椀貸山古墳・同２号墳位置図

（青木豊昭 1980 より転載）

写真５　椀貸山２号墳の馬具（輪鐙）

（福井県立歴史博物館所蔵）

中川 65 号墳は、横山古墳群の中川支群中の低丘陵尾根上に立地する前方後円墳です。古墳の規模は全長約 47m、高さ 7mです。外部施設は、段築（二段築成）、葺石、埴輪を確認しています。段築平坦面から、須恵質（すえしつ）と土師質（はじしつ）の埴輪（はにわ）が検出されており、後円部北側中段から採集された須恵質の円筒埴輪（展示 12）は、四条突帯五段構成に復元されています。底部の調整から倒立技法（とうりつぎほう）で製作された尾張（おわり）系の埴輪であることがわかります。

また、前方部先端南側から西に伸びる尾根には、1 辺 11m、高 2mの方墳の中川 64 号墳が存在し、同様な埴輪片も採集されており、65 号墳の陪塚と考えられています。

写真 6　中川 65 号墳円筒埴輪

（福井県立歴史博物館所蔵）

中川６４号墳

図 6　中川 65 号墳・同 64 号墳実測図

（中司 2001 より転載）

横山古墳群に埴輪や須恵器を供給していたと考えられるのが、やや北東に位置する鎌谷窯跡（かまたにかまあと）です。窯本体は未確認ながら、採集されている円筒埴輪片（展示 13）や須恵器片から六世紀前葉には生産を始めていたと思われます。

漆谷（うるしだに）1 号墳は、福井市江上町に所在し、５基の古墳から構成される群集墳中の一基で、古墳群は国道 416 号線の改良工事により、大部分が消失しています。１号墳は直径 14m、高さは上部が削平されていたため、正確にはわかりませんが、残存高で 1.2mの円墳です。外部施設として南側に周溝（しゅうこう）があります。埋葬施設は横穴式石室で、竪穴系横口式石室に分類され、石材は笏谷石が使われています。副葬品は、耳環（じかん）、玉類の管玉（展示 66）、ガラス小玉（展示 65）、土玉（つちだま）（展示 64）、鉄鏃（展示 51）、鉄製工具の刀子（とうす）・ヤリガンナ（展示 50）、須恵器の蓋坏（ふたつき）（展示 14・15）・提瓶（さげべ）（展示 16）・有蓋脚付長頸壺（ゆうがいきゃくつきちょうけいこ）（展示 17）など、多彩なものが出土しています。同古墳群の中で、１号墳は一番大きく、石室のほとんどに笏谷石が使われていることから、当古墳群の最初かつ中心的な古墳で、この地域の首長墓でもあり、竪穴系横口式石室を持つことから、北部九州や朝鮮半島と系譜上の関りを持つ人物であったと想像されます。須恵器などから六世紀中葉に築造されたと考えられます。

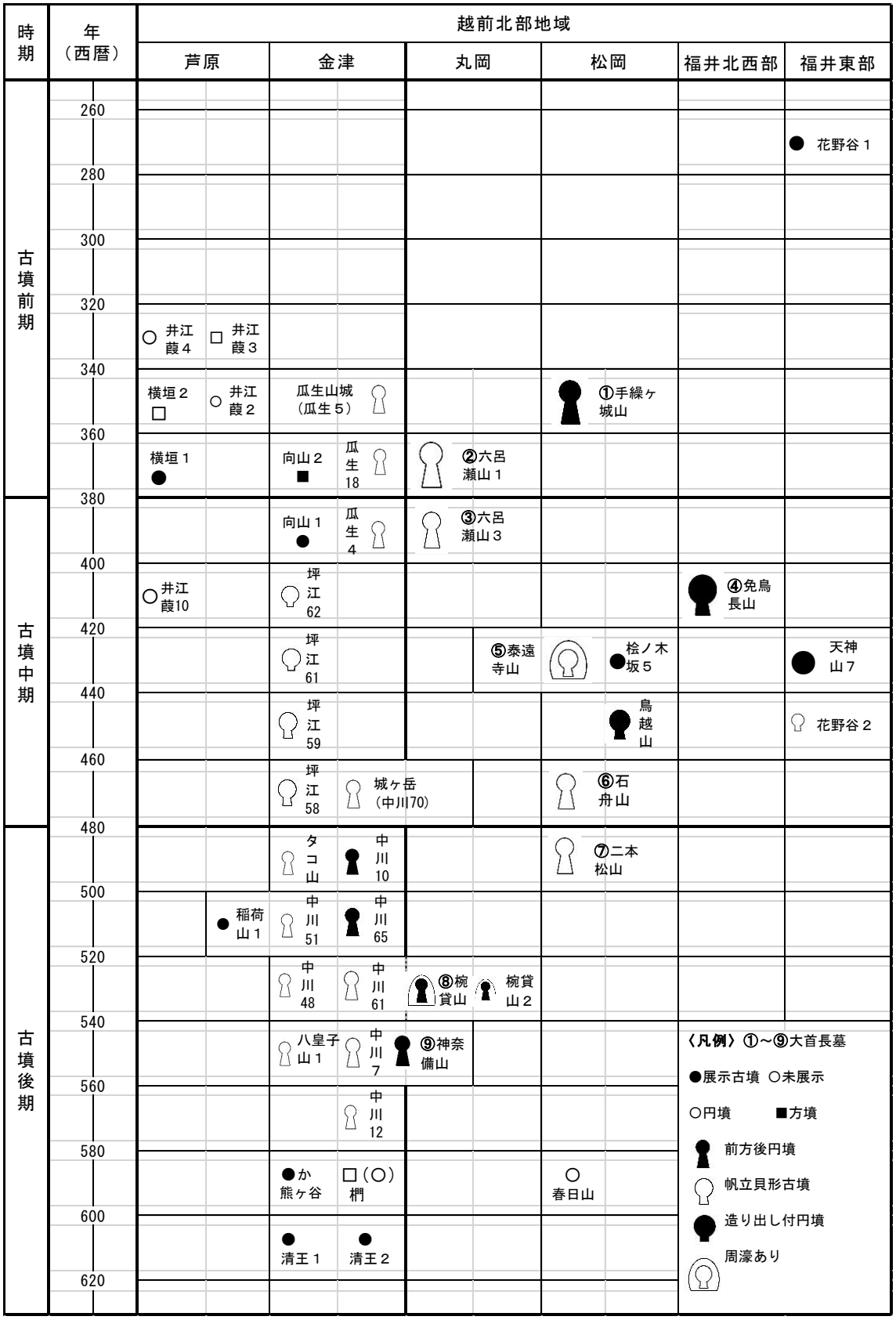

図７　福井平野周辺とあわら市の主な古墳の編年　（中司 2001・堀 2022 を元に作成）

２．あわら市における古墳の展開

【前期】

市内における古墳の出現は四世紀前葉頃で、最古の古墳は坂井平野と竹田川に面する台地上にあった井江葭古墳群中の１基ではないかと考えられます。確認された前期古墳の数は少なく、その墳形はほとんどが円墳か方墳です。最初に造られたのは方墳の可能性があります。

前期古墳の外部施設に周溝は見られますが、段築、葺石、埴輪は未確認です。埋葬施設はほぼ木棺直葬です。副葬品は、鉄製武器・工具、土器などで、井江葭２～４号墳のように供献土器以外に全く見られないものすらあります。

福井平野及びその周辺の古墳と比較すると、古墳築造の開始は遅く、前方後円墳も見られないなど、外部施設、埋葬施設、副葬品も含めて大変貧弱で、あまり大きな勢力を持つ人物がこのあたりにはいなかった可能性があります。

向山古墳群は、あわら市花乃杜（はなのもり）四丁目の台地端部に所在し、３基の古墳で構成されていましたが、宅地開発により消失しています。

１号墳は直径 17m、高さ 1.1mの円墳、２号墳は一辺 18m、高さ 2.1mの方墳です。外部施設として１号墳は墳丘の南東部、２号墳は墳丘の南側と東側で周溝を検出しています。埋葬施設は、１号墳は割竹形木棺が直葬され、２号墳は粘土床が確認されています。副葬品は、１号墳の埋葬施設内から壺１点（展示 18）、２号墳は埋葬施設からは何も出土していませんが、周溝から土師器の小型器台（展示 19・20）や壺底部（展示 22）、甕（展示 23）、勾玉（展示 21）が出土しています。時期の近い横垣古墳群よりも規模がやや小さいうえ、周溝は全周しておらず、副葬品も１号墳から壺１点が検出されたのみであることから、１・２号墳とも、この地域の首長を補佐するような人が埋葬されていたと考えられます。時期は四世紀後葉に造営されたと推測されます。また、古墳下層からは、弥生時代中期頃の方形周溝墓４基が検出されており、古くから墓域として利用されていたことがわかっています。

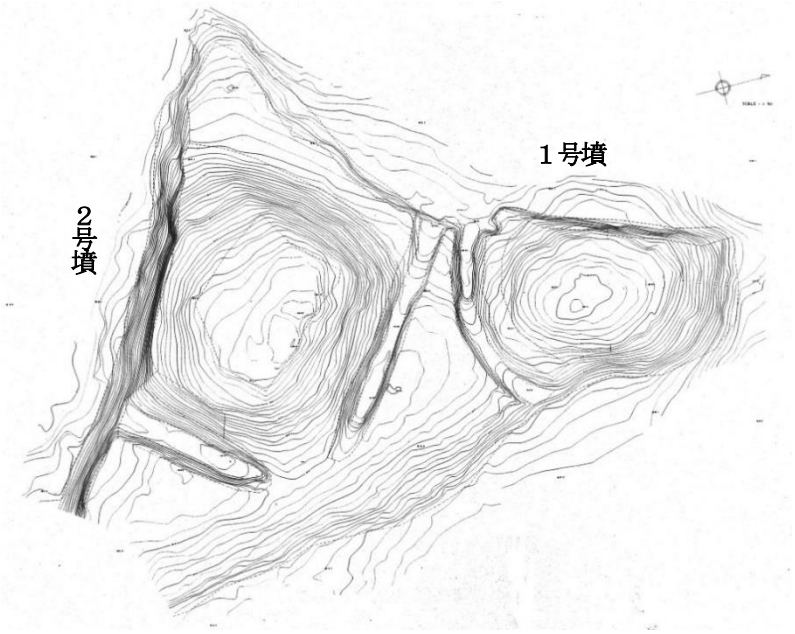

図８　向山古墳群墳丘実測図

【中期】

市内で中期に造られたことが確実に判明した古墳は、まだありません。そのため、福井平野及びその周辺の古墳と比較することはできません。

しかし、井江葭10号墳は、18基以上からなる同古墳群中最大の直径約27mの円墳で、割竹形木棺を直葬しており、副葬品は未検出ですが、立地も含めれば五世紀前葉頃築造の可能性があります。

また、横山古墳群中の丘陵頂部に所在する坪江58・59・61・62号墳の４基は、帆立貝形古墳もしくは造り出し付き円墳の可能性があります。その場合、大首長墓とされる福井市免鳥長山古墳や次の永平寺町泰遠寺（たいおんじ）山古墳などの帆立貝形古墳の影響を受けて造られた中期の古墳とも考えられます。

【後期】

市内の古墳は、大半が後期に築造されたものと考えられています。墳形は、横山古墳群内の神奈備山古墳などの前方後円墳もありますが、円墳が多数を占めています。

埋葬施設は、大半が横穴式石室で、その中に木棺を納めていたと思われます。神奈備山古墳からは石屋形（いしやかた）、同じ横山古墳群内からは陶棺（とうかん）と考えられる破片も発見されています。また、稲荷山（いなりやま）1 号墳は箱形石棺の直葬です。副葬品は、主に須恵器などの土器類で、他に武器、玉類、馬具などがあります。

市内と福井平野及びその周辺の古墳とを比較すると、横山古墳群内の前方後円墳に、外部施設として周溝（周濠）、葺石、段築、埴輪のうち複数を持つものや陪塚をもつものもあるなど、これまでとは大きく異なり、大きな勢力を保持していたことを示しています。

椚古墳は未調査ですが、大きな切石積みの横穴式石室をもつ、直径約21mの円墳もしくは一辺約 20m の方墳で、横山古墳群で前方後円墳が造られなくなった六世紀後葉以降、新たにこの地を治めた人が場所を変えて造ったものと考えられます。

一方、矢地山・菅野古墳群や清王古墳群などで群集墳が盛行します。

熊ヶ谷古墳は、あわら市矢地のカントリーエレベーター造成中に、その東側の山裾で遺物が発見されて存在が明らかになりました。しかし、墳形や規模、外部施設や埋葬施設は一切わかっていません。採集品は、須恵器の蓋坏（展示 25）・短頸壺（展示 24）や鉄製の大刀（たち）（展示 49）です。

写真７　熊ヶ谷古墳出土鉄刀

八皇子山（はちおうじやま）古墳群は、御簾尾（みすのお）と矢地境の突き出た丘陵上に所在しています。１号墳は全長25m、高さ2.8mの前方後円墳で、六世紀中葉頃に造営されたと推測されます。

外部施設はありませんが、陪塚とみられる円墳が南側にあります。埋葬施設は横穴式石室と考えられています。副葬品は、この古墳から出土したかはっきりしませんが、耳環（展示 72）、勾玉（展示 70）、管玉（展示 71）、須恵器の坏身（展示 26）・短頸壺（展示 27）などがあり、須恵器には赤色顔料が付着しているものもあります。それほど大きくなく、外部施設もありませんが、陪塚を持つことから、横山古墳群に埋葬された大首長に従っていた、この地域の首長が埋葬されていたと考えられます。

写真 8　八皇子山古墳装飾品

角（かど）（加戸）山古墳群は、菅野北西の台地上に所在していましたが、現在は台地ごと既に消失しています。大正９（1920）年の報告には７個の塚があり、たびたび発掘され、そのたびに遺物が発見されたとの記述があります。また、石室を持つ円墳との記載もあり、古墳時代後期の横穴式石室を備えた群集墳と考えることができます。伊井小学校に所蔵されている須恵器の瑟（はそう）（展示 28）・坏身（展示 29）・短頸壺（展示 30）には、昭和 31 年 10 月と記されています。どの古墳から採集されたか明らかではありませんが、六世紀中葉から後葉頃の時期と考えられます。

清王古墳群は、清王に所在し、21 基の古墳で構成される典型的な群集墳ですが、現在は開発等により３基（１号墳を含む）が消失しています。

１号墳は上部が削平されており、高さは不明ですが、東西方向 16m、南北方向 14 mの楕円形をした円墳で、七世紀前葉に造営されたと推測されます。外部施設は山側に周溝がありました。埋葬施設は両袖式横穴式石室で、全長約 4m、最大幅 1.72mです。副葬品は、耳環８個（展示 79）、管玉（展示 76）、勾玉（展示 77）、ガラス小玉（展示 78）、馬具、須恵器などが出土し、特に須恵器は 100 点以上と大量に出土しています。墳丘の規模はそれほど大きくありませんが、副葬品に馬具が含まれていることから、この地域の有力者の中でも格の高い人が埋葬されていたと考えられます。

写真９　清王１号墳周溝及び横穴石室検出状況

写真 10　清王１号墳馬具（轡）

３．横山古墳群

坂井平野北東部のあわら市中川から瓜生を経て、一部が坂井市丸岡町坪江地係に及ぶ旧国道８号線に面した通称「横山」の丘陵上にほとんどが立地します。古墳の分布は丘陵頂部から坂井平野や竹田川に面した西側に片寄っています。

現在の古墳総数は、「301 基以上（中司 2001）」で、前方後円墳は 10 基以上が確認されています。古墳の分布状況により、図９のとおり、大きく南部・中央部・北部の３群に分け、それぞれ、坪江支群・瓜生（うりゅう）支群・中川支群と呼称しています。

横山古墳群は、大半が後期の古墳群とされていますが、前期に遡る古墳の存在する可能性はかなり高く、その有力な候補が丘陵頂部に立地する全長約 40mの前方後円墳の瓜生山城古墳（瓜生５号墳）です。丘陵頂部の帆立貝形古墳や造り出し付き円墳に中期の古墳、方墳の中には、弥生時代の墳墓も含まれている可能性もあります。

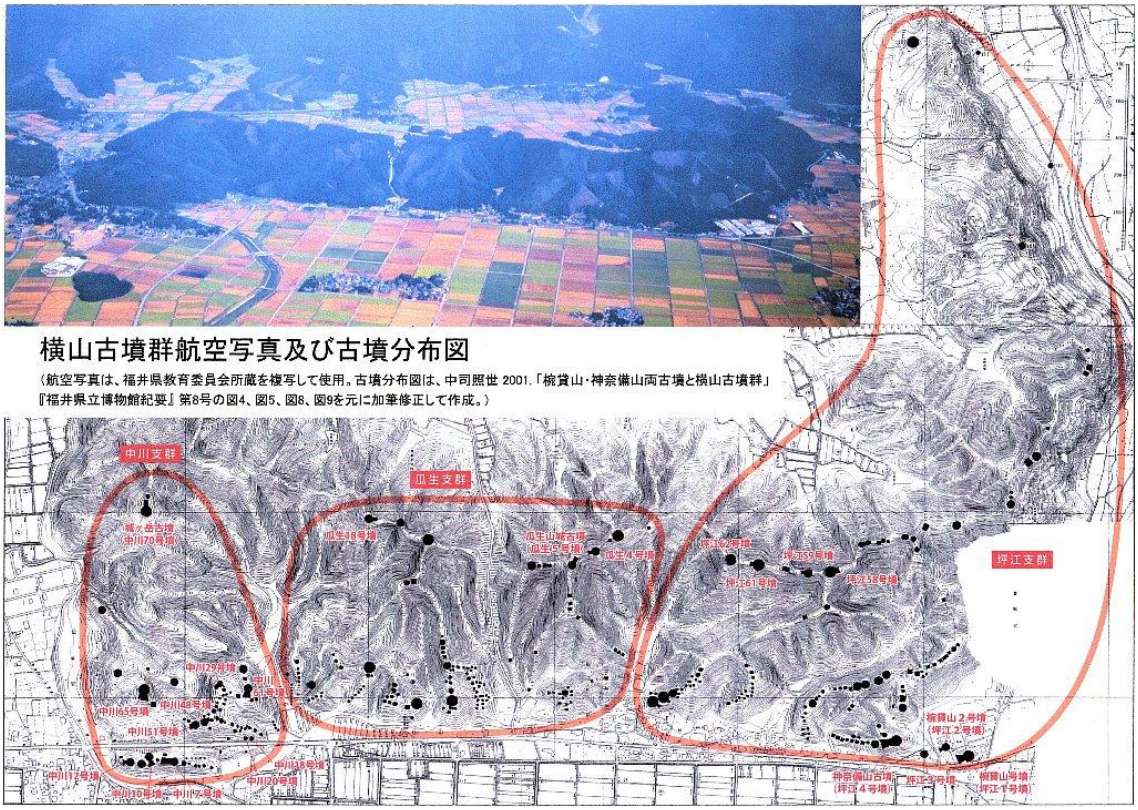

図９　槙山古墳群古墳分布図　（中司 2001 を元に加筆修正して作成）

中川 10 号墳は、中川支群の旧国道８号線で分断された西側に３基並ぶ前方後円墳の真ん中に位置しています。規模は後円部東端を旧国道建設時に欠損しており、現在の全長は約 34mとなっています。外部施設は、段築、葺石はありませんが、埴輪を備えています。採集された円筒埴輪片（展示 37）から、横山古墳群内で最初に埴輪が導入されたことがわかります。埋葬施設は、後円頂部に石材が散在していたことから横穴式石室の可能性が高いです。副葬品には、鉄鏃片や須恵器片がみられます。また、前方部の南に陪塚の可能性のある中川９号墳が所在しています。

神奈備山古墳は、横山古墳群の坪江支群に所在し、後円部の一部は坂井市丸岡町坪

江にまたがっています。標高約 42mの丘陵頂部に立地する前方後円墳で、前方部を北に向けています。墳丘規模は、全長 58.7m、高さ 7.3mを測りますが、後円部頂と前方部頂との差はほとんどありません。外部施設は、段築（二段築成）、葺石が上段のみにありますが、埴輪は未確認です。前方部の東側や北側には陪塚と考えられる古墳も存在します。埋葬施設は、切石積の横穴式石室で、奥壁際に石屋形（いしやかた）があったと考えられています。副葬品として、責金具（せめかなぐ）や捩り環頭（ねじかんとう）大刀柄頭（たちつかがしら）の刀装具（展示 53）及び鉄鏃（てつぞく）（展示 52）などの武器類、耳環（展示 73）やガラス小玉（展示 74）などの装飾品、金銅製（こんどうせい）の馬具（展示 55）と多数の須恵器片（展示 39～46）を検出しています。同じ横山古墳群内にある六世紀前葉の椀貸山古墳に続き六世紀中葉頃に築造された、越前最後の大首長墓と考えられます。

４．古墳出土の鉄製品と装飾品

先に紹介した古墳から出土したものもあるため、未紹介の古墳に絞り解説します。

横垣古墳群は、あわら市横垣に所在し、円墳と方墳の２基で構成されています。１号墳は直径 22m、高さ 1.4mの円墳です。外部施設は周溝が墳丘の裾一円に検出されています。埋葬施設は同じ墓壙内に割竹形木棺が二基検出され、どちらも直葬です。副葬品は、第一主体部から鉄剣（展示 47）、ノミ・ヤリガンナ（展示 48）が出土しています。墳丘の規模はそれほど大きくありませんが、周溝のある四世紀後葉の古墳で、副葬品に鉄剣が含まれていることから、この地域の首長が埋葬されていたと考えられます。

写真 11　横垣１号墳周溝及び埋葬施設検出状況

鉄剣　　ノミ・ヤリガンナ

写真 12　横垣１号墳出土鉄製品

花野谷（はなのたに）古墳群は、福井市花野谷町に所在し、10 基の古墳で構成されていましたが、現在は開発等で大部分が失われています。

1 号墳は直径 20m、高さ 1.6mの円墳で、三世紀後葉に造営されたと推測され、越前国では最古級の古墳です。外部施設はありません。埋葬施設は二基あり、一基は割竹形木棺、もう一基は箱形木棺で、どちらも直葬と考えられています。副葬品は、三角縁神獣鏡、連狐文銘帯鏡、勾玉・管玉・ガラス小玉の玉類（展示 57）、鉄剣、鉄鏃

などが出土しています。それほど大きくなく、外部施設もありませんが、銅鏡など越前国ではあまり見られない副葬品があることなどから、この地域の首長が埋葬されていたと考えられます。

法土寺（ほうどじ）古墳群は、福井市江上町に所在し、26 基の古墳で構成されていましたが、国道 416 号線の改良工事により、今は大部分が消失しています。

３号墳は東西方向が約 13.5m、南北方向で 12.5mの楕円形を呈し、高さは上部が削平されていたため正確にはわかりませんが、残存高で 3mの円墳で、六世紀に造営されたと推定されます。外部施設は、西側に周溝が半円状にあり、墳丘上と墳丘内に列石も確認されています。埋葬施設は横穴式石室で、全長が 7.6m、最大幅が 1.4mあり、天井石は失われていました。副葬品は、耳環、勾玉・管玉・ガラス小玉・土玉などの玉類、刀子、須恵器などが出土しています。法土寺古墳群の中でも３号墳はそれほど大きな規模ではなく、副葬品も特別なものが含まれているわけではないので、この地域の有力者が埋葬されていたと考えられます。

稲荷山古墳群は、花乃杜一丁目に所在し、直径 10m前後の９基の古墳で構成されていましたが、現在は開発等により消失しています。

１号墳は直径 12m、高さ 2mの円墳で、六世紀前葉に造営されたと推測されます。外部施設はありません。埋葬施設は墳頂部と斜面に各一基あり、どちらも組合式箱形石棺です。副葬品は、勾玉・管玉・ガラス小玉の玉類（展示 69）、鉄鏃、須恵器、土師器などが出土しています。墳丘の規模はそれほど大きくありませんが、豊富な副葬品をもち、墳丘上で出土例の少ない刀装具の三輪玉（みわだま）1 点が出土していることから、この地域の有力者が埋葬されていたと考えられます。

写真 12　稲荷山１号墳墳頂部箱形石棺

（波佐谷 1982 より転載）

装飾品の玉類は、古墳時代を通して出土しますが、前・中期は碧玉やヒスイ製、後期には水晶やメノウ製が増えています。同じ古墳群内でも材質や玉の種類が異なることもあります。中期に朝鮮半島から金製垂飾付耳飾りなどが持ち込まれると、後期に耳環が大流行しています。一方、腕輪形石製品は中期になると副葬例が減少します。鉄製品は中期に武器や武具として大量に埋納されましたが、中期末以降に朝鮮半島由来の金銅製の飾りの付いた武器や馬具などの出土例が増加するなど、副葬品からは、おおよその時期を判別できます。

〈参考文献〉

1. 斎藤与次兵衛編 1954 『伊井村誌』 伊井村役場
2. 芦原町教育委員会 1973 『坂井北部丘陵南縁の分布する井江葭古墳群 発掘調査報告』
3. 青木豊昭 1980・1988 改訂 『六呂瀬山古墳群　国道 364 号線建設に伴う発掘調査報告書』 福井県教育委員会
4. 芦原町教育委員会 1981 『井江葭古墳群（井江葭 10 号墳発掘調査報告）』
5. 波佐谷順成 1982 「幻の古墳群　稲荷山（調査の報告を兼ねて）」『会誌』第 7 号 金津町文化協議会
6. 金津町教育委員会 1989 『清王 1・2 号墳発掘調査報告書』
7. 福井市 1990 『福井市史　資料編 1　考古』
8. 福井市 1990 『福井市史　資料編 1　考古補遺』
9. 芦原町教育委員会 1991 『横垣古墳群 横垣 1 号墳発掘調査報告』
10. 松岡町教育委員会 2000 『三峰山城跡・桧ノ木坂 5 号墳　平成 8～11 年度松岡古墳群範囲確認調査報告書』
11. 福井市教育委員会 2000 『花野谷 1 号墳　発掘調査概報』
12. 中司照世 2001「椀貸山・神奈備山両古墳と槙山古墳群」『福井県立博物館紀要』第 8 号
13. 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2001 『法土寺遺跡Ⅰ』
14. 松岡町・永平寺町教育委員会 2005 『石舟山古墳・鳥越山古墳・二本松山古墳　平成 13 年～15 年度町内遺跡範囲確認調査報告書」
15. 福井市教育委員会 2007 『免鳥古墳群　範囲確認調査概要報告書』
16. 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2008 『漆谷遺跡』
17. 福井市教育委員会 2012 「花野谷古墳群」『福井市古墳発掘調査報告書Ⅰ』
18. 堀大介 2022 「番城谷山 5 号墳の被葬者像（下）」『越前町織田文化歴史館　研究紀要』第 7 集 越前町教育委員会

あわら市郷土歴史資料館・令和４年度夏季企画展

あわらの古墳せいぞろい ～福井平野との比較～

会　　期：令和４年７月２日（土）～８月２８日（日）

開館時間：９：３０～１８：００（最終入館は１７：３０まで）

休 館 日：毎週月曜日、第四木曜日（その日が祝日の場合はその翌日）

お問合せ：電話：０７７６－７３－５１５８

e-mail：maibun@city.awara.lg.jp